



患者さんに伝えたい  
ちよっとためになる  
歯と骨の話

岡崎正之 著

A5判

132p

2,100円

学建書院

長年、大学で歯科や医科の治療に用いられる医用材料の教育・研究に従事してきた著者が、本書で最も伝えたかったのは、「生体に優しい材料とは何か」という概念。著者はその理由を、「医療技術が発達し、平均寿命が延びた分、歯科材料を含む生体材料とうまく付き合っていくながら、少しでも健康な日々を送れるようにすることが大切。それには、医療で用いられる人工材料についての関心を高める必要性がある」と説く。

本書はそうした視点から、実際にこれまでどのような歯科材料が用いられてきたのか、その特性などを一般の読者向けに丁寧に解説した内容となっている。

アパタイトについての化学的な解説や、歯や骨の構造、補綴物の作り方など、難しい用語もあり、内容も専門的だが、それらについて知ることは、患者にとっても有意義だといえるだろう。

他にも「お歯黒の話」「仏歯寺の話」「筋肉・腱・靭帯の話」「お茶の四方山話」など、さまざまな話題で読者を飽きさせない工夫がされている。

骨や歯の大切さを再認識する上でも、歯科医療に対する理解を深める上でも役立つ一冊。待合室に置くのもよいだろう。

(アポロニア21 2014年1月号書評より)